

42 破天荒

令和 元年度版
創刊
第二十六号

期末考査を前に

今月もまた、令和三年度大学入試を取り巻く環境が移り変わっていくかもしれません。

第二十五号で、英語成績提供システムについて、令和三年度大学入試での延期が発表されたことに対して、私見とおもにお伝えしましたが、私達四十二回生が取り組んできたことは、この先発表されるであろう令和三年度入試において、新たな何かを準備をするというよりも、現行入試に近い形で入試をイメージして、準備をしていくことができると捉えられると思います。

若干気になることは、四十二回生の中でも温度差が出てきているところです。担任の先生方から漏れ聞こえてきたこととしては、英語成績提供システムを利用する前に、現行の英検2級合格を手に行けるところまできている生徒もいる一方で、苦手な科目がある日に、つい体調不良を感じてしまい、欠席が増えている生徒もおります。

何をやるにしても、プレッシャーは感じるものです。目の前のことが一番辛いと感ずるのもよく分かりますが、人生の先輩として言えることは、得てして「やっておけばよかった」と思う後悔です。やって失敗して味わう恥ずかしさと、やっておけばよかったという後悔は、なかなか掛ける天秤には見合わないものなんだと、伝えることができれば、と思います。

さあ、2 学年 2 学期期末考査。考査が終われば、学年は修学旅行準備へと進んでいきます。どれもが、相高での想い出となります。ただ何となく行事を進めていくのではなく、将来の自分が、今の自分をどう振り返るか、そんな時間や体験を楽しんでもらいたいと思います。

追伸 修学旅行について、生徒に連絡している内容を記したプリントは、生徒氏名等、プライバシーに関わることを伏せた状態にして、本校ホームページに四十二回生修学旅行のページを作っています。保護者の皆様にも生徒との会話も通じて情報を得て頂きたいですが、生徒からの話が不十分に感じた際は、ぜひ利用して頂きたいと考えております。ホームページも一度ご覧ください。

新三年時科目選択 および 選抜クラス希望調査について

十一月二十二日に締め切った、新三年時科目選択において、次のような結果になっておりますので、お知らせいたします。

- ・国立文系型希望者 六十一名
- ・公立文系型希望者 五十六名
- ・私立文系型希望者 五十七名

二年生での選抜クラス人数は、現在四十一名です。選抜クラス希望者が非常に多いため、希望が叶わない場合があります。十二月の面談で、お伝えすることになります。ただ、選抜クラスに入れたから、国立大学への道が確実になるわけではなく、逆に、選に漏れたからと言って、その道が閉ざされるわけではありません。

目標を叶えるために、与えられた環境の中で何を継続し、努力を重ねるべきかを、より早く明確にして次の歩みを始めてもらいたいと思います。

今号は、生徒たちが様々な行事に参加した際に、活動報告を行った中から、具体性を持って、次の行事等に向けての課題を見つけ、繋げていこうとしている、他の4 2 回生にも活きる内容を多く掲載しました。

十二月(師走)以降の予定

十二月	一日(月)	二日(月)	三日(火)	四日(水)	五日(木)	六日(金)	七日(土)	八日(日)	九日(月)	十日(火)	十一日(水)	十二日(木)	十三日(金)	十四日(土)	十五日(日)	十六日(月)	十七日(火)	十八日(水)	十九日(木)	二十日(金)	二十一日(土)	二十二日(日)	二十三日(月)	二十四日(火)	二十五日(水)	二十六日(木)	二十七日(金)	二十八日(土)	二十九日(日)	三十日(月)
		六日(金)	修学期末考査																											
			神戸大学留学生交流事業																											
			GTEC検定																											
			検定のため欠席しても返金できません																											
			自然科学コース徳島大学研究室訪問																											
			修学旅行・マラソン大会前健康相談																											
			挨拶運動																											
			午前中授業(三、四、五、六限)																											
			二期成績会議																											
			成績不振者には電話連絡をしようとして、三者面談後、学年主任指導あり																											
			保護者懇談会																											
			自然科学コース岡山大学出前授業																											
			(一、二限)																											
			数学理科甲子園(理系選抜生徒)																											
			消費力アップ大作戦 および 募金活動																											
			終業式・大掃除																											
			仕事納め																											
			仕事始め																											
			修学旅行大荷物発送																											
			詳細は、二期終業式までに連絡します																											
			始業式・大掃除・校内実力考査																											
			校内実力考査																											
			挨拶運動																											
			進研模試(マスク着用を心掛けてください)																											
			未受検者は、十九日(日)を主に予定																											
			不要な欠席がないよう、体調管理を																											
			修学旅行																											
			通学路清掃																											
			インフルエンザ予防接種																											
			うがい、手洗い、顔洗い、歯磨き																											
			サプリメント・飲料水																											
			等、対応できることは、しっかりやりましょう																											

生徒の記述力

10月12日 西播磨英語スピーチコンテストで、2年3組の岩崎はずきさんが発表する予定であった原稿です。42回生進路研修会と同日でしたが、台風にやられてしまいました。

11月13日相高生フォーラムで校内発表を行いました。発表させたかったなあ。

The best approach to a bright future

Do you have any worries now?

If you do, I want you not to be afraid to come to others with your problems. Someday you may find yourself in the worst mental situation because of these worries, though they may seem small now. Recently, the number of youth suicides in Japan has been increasing. I'm always deeply saddened when I hear on the news that even children who are younger than me have chosen death for themselves. I think that there are many factors that contribute to youth suicide. For example, bullying, abusive home lives, or trauma from things such as traffic accidents... there are many reasons. It is necessary to heal the broken hearts of these young people in order to make their attitudes towards life positive. However, as it stands now, young people in Japan cannot heal their hearts, as Japanese society prevents them from doing so. Children are expected to go to school with their broken hearts hidden. where they'll be under more and more emotional pressures.

Eventually the stress becomes so great that many children choose not to go into public place, and some even choose death.

This is the present situation of Japan's youth. In Japan, the standard expectations of children are that they should go to school every day and that they should study hard.

I think that this overemphasis on school and schoolwork is wrong. Going to school is not the only thing that is important about a young person's life.

The most important thing is the young person's life itself, and whether or not they are able to enjoy it. What Japan roadshow is a system that allows the healing of broken hearts and which promotes a positive attitude towards life.

When I was a junior high school student, I went to Australia for a week. It was a project for Japanese elementary school teachers, so we visited a lot of elementary schools.

The purpose was to learn about the Australian education system and take away some good points from it.

At one elementary school, I saw an unforgettable scene. That day, a local teacher guided us throughout the school as usual.

Eventually, we were guided to a certain room, and when the door opened, I was surprised by what I saw. There were many students of many different ages in the same room and they did different things as they pleased. Some students were drawing pictures at their desks while others were reading books while lying down.

I even saw some students daydreaming. I couldn't understand what the room was for, as I had never seen such a thing in Japan.

A local teacher told us, "This room is for children whose hearts were broken by incidents such as traffic accidents or bullying.

In this room, they don't have to study if they don't want to. If they need to do nothing, they can. We think that doing nothing is sometimes the key to promoting a positive attitude. We have created conditions without any pressures,

"When I heard that, I was impressed. In this situation, young people didn't have to hide their emotions for the sake of schoolwork. Then, I understood that people in Japan needed this system. If this system had been in place in Japan, some youth suicides might have been prevented. I can't stop thinking this is true. Everyone has moments of mental weakness, so sometimes we have worries. I think that overcoming worries gives us an opportunity to be strong. I want to be able to help provide a condition without any pressures for young people. When there is a large amount of pressure, young people suffer. To take a step back and do nothing is the most effective way to combat this suffering.

As if stand now, I think the country which could most benefit from this system is Japan.

令和元年度 相生市人権作文 最優秀賞

私のいとこ

相生高等学校二年 高田美空

皆さんは障がいのある人に出会った時、どう思い、何を感じますか。あなたにとって障がいのある人とはどのような存在ですか。可哀想だと感じますか。変な人、自分には関係ないどうでもいい人ですか。

私には、「ダウン症候群」という障がいを持って生まれていたいことがあります。いわゆる、ダウン症と呼ばれる障がいのことです。ダウン症とは、染色体異常により、顔つきに特徴があり、身体や脳などの発達が遅れたりする障がいです。私が小さい頃は、彼女に障がいがあるのだと、知りませんでした。しかし、成長するにつれて、自分に出来ることが彼女には出来ないということが多々あり、「彼女はどこか違う」と思い始めました。

また彼女とは、同学年であり、小、中学校と同じ学校に通っていたため、友達に彼女について悪く言われたり、話す時に言葉がつかえたり、同じ言葉を何度も繰り返したりする吃音も出るため、バカにされていることも度々ありました。そのため私と彼女がいとこだと知ると、みんな私のことを嫌いになってしまうのではないかと、私も彼女と同じようにバカにされるのではないかと怖くなり、友達に、「私と彼女はいとこだ」と言いづらく、悩んでいた時期があり、そのことを母に言いました。すると母は「障がいを持ちたくて生まれてきたわけじゃない。あの子はこの子の出来る範囲のことを一生懸命頑張ってる。みんな接し方がわからへんだけだから、みくは今まで通りあの子に合った接し方をしてあげて」と言いました。私はこの母の言葉を聞いて、人間は障がいがあるとなかろうとみんな平等で同じだということ、そして人を思いやることの大切さを学びました。このことがあり、私は友達にいとこであることを打ち明けられるようになりました。

お互い高校生になり、会う回数も少なくなってしまうけれど、会った時は必ず笑顔で学校の話や友達の話をしてくれます。彼女が笑顔で話しているのを見ると、私も嬉しい気持ちになります。

三月二十一日が「世界ダウンの日」ということを知っている人は、どれだけいるのでしょうか。これは二〇一二年に国連が定めた国際デーで、なぜ三月二十一日かという、ダウン症は、「二十一番目の染色体」が三本あることが、主な発症要因のため、この日に設定されたそうです。

ダウン症は決して珍しい障がいではありません。だからこそもっと沢山のの人に障がいのある人に対する行動を考え直して欲しいのです。私はいつか障がいのある人をバカにしない、そんな世の中が来て欲しいです。

体育大会から修学旅行へ

普段は見られない仲間の姿を見られたのが嬉しかった。非日常的な環境だったからこそ、自分の殻も少し破ることができた気がする。修学旅行に向けて、今回感じられた一体感や協力する姿勢を活かし、全員が楽しめるようにしたい。そのためにも、一人一人が相手を思いやり、楽しむ時とけじめをつける時の切り替えが大切であると思う。
(体育大会を終えて)

相高祭、体育大会では、みんなのやる気スイッチがオンになるタイミングがとても遅かったので、修学旅行では早め早めに行動し、ルールをしっかり守っていきます。クラス内や学年等でトラブルや問題が起きないように慎んで、行動します。そして、最高の思い出ができるように、安全等にも気を付けながら、その時を過ごします。
(体育大会を終えて)

修学旅行では、体育大会とは違い学年やクラス単位だが、スキーなどでは体育大会で身につけることができた教え合いを生かしたいです。また、クラスや班などで話し合いをするときには、課題である一人一人の意見を取り入れることができるように、普段の学校生活から意識していきたいです。
(体育大会を終えて)

高2の体育大会が終わった。私は応援合戦が楽しみで、曲決めからワクワクしていた。ダンスの練習では、すごく上手に踊る友達を見ついたり、普段は見られない発見があっただけじゃなかった。本番は少し緊張したが、みんな笑顔だった。次の修学旅行も、少しずつみんなの距離が縮まって、同じ温度で「今」を楽しみたいと思う。
(体育大会を終えて)

明るく元気に2組らしく体育大会に挑みました。最初は応援合戦の曲が決まらず、すごく焦りました。しかし、クラス皆のおかげで、学級旗も応援合戦も全体的にもいい形で終わることができました。修学旅行でも同じように、一人一人が決められているルールを守り、決められている時間を2組全員、42回生全員で守りたいです。
(体育大会を終えて)

文化祭と体育大会を通して、全員で一つの作品を作り上げることに素晴らしい学びがありました。応援合戦、競技中の応援両方でクラスが一つとなり、全力で取り組むことができ、文化祭のときよりも2組全体で成長できたと思います。普段の学校生活でも今回の経験を活かして成長し、より良い修学旅行にしたいと思います。
(体育大会を終えて)

今回の体育大会では、練習時間に時々、クラス全体がギクシャクしたり、練習中だけでなく教室でも空気が重いように感じられることがありました。しかしそれらの感覚は、本番が終わった瞬間に消えました。皆、達成感で胸がいっぱいでした。だから私は、修学旅行では嫌な空気になることなく、とても楽しいものになると思います。
(体育大会を終えて)

修学旅行では、体育大会で育てることができた、仲間を応援する気持ちを行動で表すことを生かし、互いに声を掛け合いながら楽しみたいです。特に、スキー講習では周りの人を気に掛けながら、仲間とともに分からない所を解決しようと思えます。さらに、楽しむ所と真剣に取り組む所の切り替えをして、素敵な思い出を作りたいです。
(体育大会を終えて)

今回の体育大会で全力でダンスに打ち込み、その結果、やり切ったという満足感のようなものを感じました。修学旅行では、班行動や、学年全体での動きがあり、一人一人の行動が、全体に影響したりするので、迷惑にならないようにしたい。そして、修学旅行では班の中心的位置になりたいので、早く早めの行動を心掛けていきたいです。
(体育大会を終えて)

体育大会では、クラス内で支え合い、話し合い、とてもいいクラス応援を作り上げることができ、他学年の同じクラスにも私達の勢いが伝わったと思います。修学旅行では、今回の体育大会のように、クラス内で自分達の感じたことを共有し、帰ってきたときの学年の雰囲気さらに充実したものにしたい。
(体育大会を終えて)

短い準備期間の中で頑張れたと思う。しかし、初めの方は協力的ではなかったことが残念だった。すごく大事になってくると思うので、そこはクラス全体で気を付けていきたい。一回きりの高校生活の一大イベントである修学旅行を、クラスの特徴である、楽しむことでよい思い出にしたい。
(体育大会を終えて)

他のボランティア等の報告

初めてちゃんとしたボランティアに行った気がします。それぐらいいろいろなことを経験したと思っています。自分一人の役割があったり、スポーツ推進委員会の方と協力してやることがあったりと、いろいろあったのですが、その結果競技参加者が、笑顔で怪我なく終えることができたと思うと、本当にやって良かったなと思えてきました。

その経験の中でも、障害者の方が話しかけて下さったときなどが、すごくうれしかったです。
こんな経験なんてなかなかできないだろうと思います。この経験を少しでも、これからのすべての活動に活かしていきたいと思いました。
(あいあいスポーツ大会に係る高校生ボランティアを終えて)

今回のボランティアでは、受付の仕事をしました。この仕事を通して、与えられた仕事をするだけではなく、周りを見て行動したり、先を考えて行動したりすることができるようになりました。一緒に仕事をしていて一年生が忙しいときに、その仕事を助けたり、場所が分からない人が訪ねてきたときのために、事前に調べておいて、質問に来られた際、スムーズに対応することができました。少し大変なこともありましたが、小さい子たちに「ありがとう」と言ってもらい、元氣になれました。
今回の反省点を次に生かしたいと思います。
(こどもフェスティバルneoボランティア受付を終えて)

ELTの補助ということで、三人のアメリカ出身の方と行動をともにしましたが、ずっと大変でした。英語は得意な方だと自負していましたが、一人大変早口な方がいて、聞き取るのに苦労しました。一生懸命に、子供とコミュニケーションをとり、喜ばせようとする三人の姿を見て、大切なのは気持ちだなとしみじみ感じました。
日本語を母国語としない人と子供たちが、一対一で関わる機会なんて滅多にないと思うので、今回このイベントにボランティアとして参加することができて良かったです。
(こどもフェスティバルneoELT補助を終えて)

今回は、段ボールでガチャガチャや家を作るのを子どもたちに教えるりする手伝いなどをしました。子供たちとたくさん触れ合うことができて、楽しかったし、すごくかわいかったです。私達が手伝いをさせて頂いた2パックの方たちもとても優しく、楽しくボランティアをすることができました。子供たちと一緒に、ガチャガチャや家を作った後に、「ありがとう」と言ってくれたのがすごく嬉しかったです。また、参加したいなと思いました。
(こどもフェスティバルneoボランティアを終えて)

私は星に願いごとを書いた紙をつるしたり、段ボールでガチャガチャや家の引き出しを作る手伝いをしました。最初は願いごとをつるして、スタンプリーのシールを貼る係をしていました。普段小さい子と話す機会がありませんので、最初は話し方が分からなかったけれど、みんな笑顔で「ありがとう」と言ってくれたのですごく嬉しかったです。後半は、ガチャガチャづくりの手伝いをしました。作り方が難しかったので、分からない子が多くて、手伝うと嬉しそうにしてくれたので良かったです。
(こどもフェスティバルneoボランティアを終えて)

役割は当日会場に行ってから教えて頂いたもので、英語が苦手な私は驚きました。最初は、緊張で単語も出てこなくてうろたえていました。その時に、一緒にボランティアしていた仲間にとっても助けてもらいました。ある程度時間が経ち、その場に慣れてくると、少しずつですが話せるようになってきました。
(こどもフェスティバルneoELT補助を終えて)

一緒にボランティアをする人が一つ上の先輩だと分かったときは、上手くやっていけるかどうか不安でした。でも、先輩が笑顔で教えてくださった協力してくださったお陰で、自分も笑顔で対応することができました。
人生初の校外での人権講演会で、知っておくべきことをたくさん頭に残すことができました。涙ぐみながら自分達に人権の大切さ・重さ・厳しさを訴えてこられている姿を見ると、自分も胸を打たれました。
(「人権の集い」高校生ボランティア会場受付を終えて)

ステージの下手側に立って前を見たとき、大変大勢の人が視界に入ったので、緊張するかもしれないと思いました。でも、実際は意外と落ち着いて話せました。大勢のスタッフさんが忙しそうに準備をしつつも、高校生ボランティアの私達を気遣ってアドバイスを下さったり、「よかったよ!」と言って下さったので、自分もさらに何かをしたいと思うことができました。講演会の内容もすごく良く、無事成功してよかったです。貴重な体験を今後活かして、また役に立つことができたいと思います。
(「人権の集い」高校生ボランティア司会を終えて)

私たちは写真を撮ることがメインで、基本的に会場の中で座って写真を撮っていました。しかし、講演がとて面白くて、自分の役割(写真撮影を忘れてしまっそうでした。一緒に来た高校生の皆は、「座る席がなくてずっと立つのもしんどい」という理由で、会場を出ていたらしいのですが、とても勿体ないです。周りを見れば、年配の方も多かったのですが、この講演は十代の私たちが率先して聞くべき内容だと私は思います。大変参考になるお話が聞けて良かったです。(「人権の集い」高校生ボランティア写真撮影を終えて)

受付を始める前に資料整理をしたときに、資料の枚数が膨大で大変でしたが、ボランティア参加者全員で協力して無事終わらせることができました。
また、受付時、お話し好きな方に長時間目の前で話し込まれたり、講演会の紙と思われるものを手渡されたりと、少し戸惑う場面もありましたが、スタッフの皆さんのサポートもあり、トラブルなく講演会を進めることができました。
(「人権の集い」高校生ボランティア受付を終えて)

次は、2学期終了号です。修学旅行、模試等の話も含めて、3年0学期など、いよいよさらに入試モード色が強くなります。
さらなるプレッシャーをかけるのかと思うでしょうが、これも高校時代の思い出です。
なお、私談ですみません。第一号以来、月初め発行を心がけておりましたが、いかなる理由であっても、それを途絶えてしまい、猛省いたします。すみません。